

入野小学校

『鍛える』～確かな学力を身につけ、心豊かでたくましく子どもの育成

校長 前田 浩文

◆はじめに

今年度、新たに16人の新入生を迎え、児童数126人(9月1日現在123人)、教職員20人でスタートしました。学級数は特別支援学級3学級を含め9学級で編成しています。

おおらかで優しい子どもたちです。6年生のリードのもと元気に勉強にスポーツに励んでいます。

◆学校教育目標

「鍛える」確かな学力を身につけ心豊かでたくましい子どもの育成

「鍛える」には、練習、修練を繰り返して、技術や身体・精神をしっかりとしたものにするという意味があります。「知・徳・体」それぞれに鍛え、バランスのとれた力を養いたい、そんな思いを込めています。同時に、私たち自身の指導力を鍛えてい

こうという意味も含めていきます。

◆学力向上

子どもたちが大人になるころには、情報化、グローバル化に伴い、AIの進歩で仕事が大きく変わるだろうと言われていると思います。その社会の変化に対応できる力を身につけるためには、自分で考え、判断し、行動できる力が求められます。そのために、授業にICTを取り入れたり、調べ学習をしたり、地域への聞き取り学習をしたりなど、教科学習で学んだことを、活用しながらより深く、広く学べるように実践しています。



聞き取り学習

◆豊かな心

「命を大切にする」というスローガンを全校で確認しています。自分の命はもちろんのこと、友だちの命も大切に、つまずき、相手を助けることを思いやりながら優

しい心で仲良く生活することです。そのために、道徳や人権、学級活動などの授業を通して、人としてのあり方や生き方を考えます。また、児童会が中心になって、はじめのない学校をつくるために、なかよし朝会でみんなが楽しめるゲームを考え実行したり、困った時、相談できるようにと相談窓口を開いたりなどの活動を行っています。

◆体力向上

体育の授業では、「私たちの体育」という教材を活用しながら、バランスのとれた運動を行っています。また、全国・県の体力テストの結果をもとに、課題のある運動領域を高めるためのアプローチとして体育専門講師を招聘して研修も計画しています。

日常的に体力向上を図るために、読み聞かせ朝会のある水曜日以外の朝8時から、全校の朝マラソンを実施しています。

◆実践的防災教育推進事業

今年度から高知県実践的

防災教育推進指定事業を受けて、研究を進めています。

すでに、保・小・中・高合同避難訓練や下校時の避難訓練、引き渡し訓練などを行い、また、授業を通して防災への知識と命について学んでいます。



合同避難訓練

津波高校生サミットが黒潮町で開催され、「黒潮宣言」が採択されました。その宣言の中に、自然の二面性が謳われています。それは、災害と恵みです。その二面性を理解しながら、「学ぶ・行動・創造」を理念として掲げられています。

本校もその理念を大事にしながら、自らの命を守り抜くために自分で考え、行動できる児童の育成を目標とし、防災学習や避難訓練を通して、科学的認識や実践行動を身につけると同時に、美しい自然と、その恵み、地域のよさも再確認で

きるような取組を進めていきます。

◆道徳教育研究大会

今年度、幡多地区道徳教育研究発表が、12月8日に大方中学校と本校を会場に開催されます。小中学校とも道徳の授業公開を行います。子どもたちが、深く考え、話し合いのできる道徳教育を目指して、研究を続けていきます。

◆外国語コア・エリア推進事業

2020年度から、新学習指導要領に基づき、小学校3・4年生で週1時間の外国語活動、5・6年生で週2時間の外国語が実施されます。それを見据えて、今年度より、県の外国語コア・エリア推進事業の町内の拠点校として、外国語の公開授業などを通じた研究を進めています。

◆おわりに

子どもたちが、将来への志をもつてたくましく生きていけるよう、地域の良さや環境を活かして、温かいつながりの中で、その素地を養いたいと考えています。

佐賀小学校

夢や志をもち、やさしく、たくましく生きる児童の育成

校長 陸野 高俊

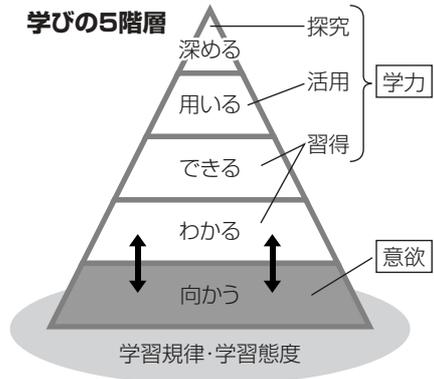
◆はじめに

今年度は、児童数93人、学級数8(通常学級6、特別支援学級2)、教職員数17人でスタートしました。学校の教育目標は、「夢や志をもち、やさしく、たくましく生きる児童の育成」です。昨年までの目標に、「やさしく」を加えました。

お：おもいやる子
が：がんばる子
た：たくましい子
ま：まなぶ子

「自分や相手の良さを認め合い、支え合える」、「最後まで粘り強く取り組もうとする」、「失敗にへこたれず、一人でもやり遂げる」、「意欲をもって学び、思考し、表現しようとする」、そんな子どもになってほしいと願い、教育活動を行っています。

◆最も大切にしたいもの、それは「学びに向かう力」



子どもたちを学校の教育目標やめざす子ども像に近づけること。とりわけ、学力を中心とした力を身につけさせること。それは、私たち教職員の切実な願いです。そのために大切にしたいことは、主体的に取り組みようとする力、つまり、「学びに向かう力」を育てることです。

学力は、学びに向かう力と、それを支える学習規律や学習態度の上に築かれます。土台がしっかりしていれば、習得・活用・探究の学力は積み上げやすくなります。その土台は、日々の学級づくり、授業づくりで培われます。土台もしっかりさせつつ、学力を積み上げ

げていく取組が、今、本校では求められています。

◆学力の状況

4月に実施した標準学力調査、全国学力・学習状況調査の結果からは、全体として、国語の「読むこと」にかかわる力に課題があることが明らかになりました。また、日々の姿からは、人の話を聴いたり、自分の考えを表現したりする力に課題が見られます。これらの課題を克服するために取組を進めています。

◆学力向上への取組

今年度は研究主題を「よく聞き、自ら考え、伝え合える子どもを育てる」を主体的・対話的な授業づくりを通して」として、算数科や総合的な学習の時間などを中心に研究を進めています。

○〇についてみんなで考えたい」などの言葉が子どもから生まれ、翌日の学習につながるような授業をめざしています。

③児童会活動とのタイアップ 子どもたちにも学力向上に参画してもらおうと、国語委員会、算数委員会を立ち上げました。自分たちで問題を作り、全体に投げかけ、学習への動機付けを行っています。

④夏の補習(小中連携の取組) 夏休みの補習(学びたい夢)にも全学年で取り組みました。場所は中学校。冷房のきく部屋を提供しても、中学3年生や中学校の先生方にも協力してもらって実施しました。丸つけてもらったり、わからない問題を教えてもらったりと、うれしそうなお子ど



学びたい夢

◆地域にほこりと愛着をもつて、貢献できる力を 今年も浜田富男さんに協

力していただき、4・5年生は田植えと稲刈りの体験を行いました。秋には収穫祭を行います。一方、4・6年生は「三世代ふれあい健診」に今年も参加しました。子どもたちにとっては、地域をフィールドにした貴重な体験学習の場です。どの子も自分の役割を果たすといういきいきとした表情を見せ活動しました。



三世代ふれあい

先日、地域の方から次の言葉をいただきました。「子どもたちには、地域に誇りと愛着を持って、生き抜く力、貢献できる力を身につけさせてほしい」。これは、学校の教育目標とも重なります。生活科や社会科、総合的な学習の時間などを中核に、体験的、探究的な学習を通して、学びへの意欲を高めていくとともに、地域や地域の人々に役に立ちたい、貢献したいと思う子どもにも育てていきたいと考えています。